

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O193600047		
法人名	株式会社 彩寿		
事業所名	グループホーム彩寿 1階		
所在地	苫小牧市桜木町2丁目2番20号		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=O193600046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=O193600046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和6年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気の中、入居者様とスタッフの会話も多く笑顔の絶えないホームです。施設ではなく、家という思いで、喜びや悲しみを共有しながら、ホームがひとつの家族のような関係作りを目指しています。医療面では、協力医療機関や訪問看護ステーションと連携し、日々健康管理に努めています。看取り介護にも積極的に取り組んでいます。地域との繋がりも大切にしながら、入居者様が安心・安全に過ごせる様。ご家族様にも安心・信頼して頂ける様なホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム彩寿」は、苫小牧市郊外の閑静な住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。リビング・ダイニングを中心に居室が配置された開放感のある造りで、絵画や利用者の写真、保育園児から贈られた作品などが壁に飾られている。感染症の流行で地域交流は少なくなっているが、閲覧板を通して地域情報を得たり独居高齢者の鍵の預かり事業に協力するなど、「地域と共に歩むホームを目指します」という基本理念に沿って全職員で地域に根差した運営に取り組んでいる。ケアマネジメントの面では、職員が交代でアセスメントを行うことでそれぞれの職員の視点を活かした介護計画を作成している。また、利用者の様子を具体的に伝えて家族の意見や要望を細かく聞き取り、介護計画に反映できるように努めている。家族への情報提供として、年4回の彩寿通信と利用者担当職員による毎月の個別メッセージを送っている。医療面では、職員が受診に同行して健康状態を詳細に伝え、適切な医療が受けられるように支援している。主治医や訪問看護師の協力を得ながら、看取りにも積極的に取り組んでいる。知人や友人、遠方の方が来訪するなど、馴染みの関係が途切れないような支援を行っている。今後も感染状況を見ながら個人や数人でのお外出を再開し、利用者の楽しみや笑顔を増やしていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、ケア理念をホール内に掲げ、スタッフ間で共有し実践に繋がるよう取り組んでいる。ケアプラン作成時や問題が生じた時など、理念に立ち返り実践に繋げている。	法人基本理念に「ご家族に安心と信頼を、そして地域と共に歩むホームを目指します」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた項目が含まれている。玄関やユニットに掲示し、個々の介護計画にも反映させている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行により、地域との交流も控えていたが、今後は以前のような地域との交流の場を設けたい。回覧板を通し、地域の情報は得ている。	感染症の流行により地域の行事がほとんど無いため、散歩や除雪で挨拶を交わす程度になっている。社会福祉協議会の依頼で、独居高齢者の鍵の預かり事業に協力している。今年は事業所の夏祭りを再開し、近隣住民と交流したいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の小学校での、認知症サポーター養成講座に関わっていたが、コロナ流行で控えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、外部の人を呼んでの開催はしていなかった。今後は、予定を立ててご家族様や地域の方にも参加頂ける様、取り組んでいく。会議の年間予定表を送付済。	感染症の流行状況を見ながら、事業所の報告を中心に書面会議や対面会議を開催している。参加する家族も限られているが、議事録を全家族には送っていない。地域役員が交代したので、今後の会議への参加者について相談する予定である。	全家族に議事録を送付するよう期待したい。また、議事録に次回のテーマを記入するなど、参加できない家族の意見や質問なども会議に活かすような工夫を期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内で何か、問題や疑問が発生した場合など、市町村に連絡を取るなどしているが、今後は、運営推進会議等を通して、協力関係を築くよう取り組んでいく。	介護福祉課から日本語学校への協力について相談を受けたり、保護課と利用者に関して情報交換している。現在は相談する事例は無いが、何かあればいつでも相談できるように日頃から協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為について、十分理解できる様、外部研修内部研修を通して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した指針を作成し、3ヶ月ごとに委員会を開催している。年2回勉強会を実施し、禁止の対象となる具体的な行為11項目や言葉の拘束について学んでいる。委員会の議事録の職員確認欄を見やすく整備することも考えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間の情報を共有し一人ひとりのケアを確認しながら、虐待が見過ごされることがない様取り組んでいる			

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか学ぶ機会がなく、活用できていない。今後は、学ぶ機会を設け、活用出来る支援に繋げていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い、入居者様やご家族様の疑問や不安に思う点を解決し理解、納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や入居者様とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望に耳を傾け、スタッフ間で情報を共有し運営に反映させている。	来訪時や電話、メールなどで利用者の様子を伝えて家族の意見や要望を聞き取り、連絡ノートや個別の「家族とのやり取り」に記録している。年4回彩寿通信を発行し、毎月個別に手書きのメッセージを送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回個別懇談の場も設け、出された意見や提案は、十分話し合い、反映させている	全体会議やユニット会議、普段の業務の中で職員の意見や提案を聞き取っている。職員と検討し、利用者の状態に合わせて業務の流れを変更することもある。職員は、順番に全利用者を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。向上心がもてる様、資格習得の為の休暇や手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ期間で、外部研修への参加は減っているが、スタッフからの申し出のあった研修には、参加出来る様、調整を行っている。外部の研修については、計画を立てて取り組んでいく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流は、コロナ期間もあり出来ていない。今後は、研修会等の場で交流や情報交換をしサービスの質の向上に繋がる様取り組んでいく。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、本人が安心できる、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていることや不安に耳を傾け、情報交換や情報の共有を行い、出来るだけ不安の解消、要望に近づける様、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居段階で、入居者様やご家族様が必要としているサービスを見極め、十分な話し合いをし、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側もされる側も、同じ立場という思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態を把握し、ご家族様と情報交換や情報の共有をすることで、共に支えるという関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所との関係や友人関係等、馴染みの関係が途切れない様に、電話や面会等の支援に努めている	知人や友人、近所に住んでいた方が訪ねて来たり、遠方の知人が来訪する利用者もいる。家族と自宅に帰ったり、法要に出席した方もいる。感染症の流行状況を見ながら、数人での買い物や個人外出を再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格、生活習慣を把握し、入居者様同士の関わり合いが出来るよう空間作りを含めて支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、これまでの関係性を保ち必要に応じて、相談や支援に繋がっているご家族様もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の変化をスタッフ間で共有し、入居者様の希望や意向を把握できるよう努めている。困難なケースの場合は、本人本位で検討するよう努めている	会話から思いや意向を把握できる方も多いが、表情や仕草から読み取ることもある。アセスメントシートに生活歴や趣味、嗜好などを記入して3か月ごとに更新し、変化があれば赤字で記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に頂く情報と、本人やご家族様から頂いた情報を個別にまとめ、スタッフ間で共有し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等やコミュニケーションを通して、個々の生活リズムや身体状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、モニタリングを行い、意見等を反映しながら、現状に添った介護計画を作成できる様努めている。	担当職員が作成した評価を基に全職員で検討し、3か月ごとに介護計画を作成している。利用者の様子を具体的に伝えながら、家族の意向を介護計画に反映するように努めている。「具体的援助内容」に沿って、日々の記録に変化を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報を共有し、モニタリングをしながら、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の、その時々ニーズに合わせ、柔軟な対応が出来るよう、十分な話し合いをしながら取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、行事等に参加したり、本人が心身の力を発揮できたり、楽しく暮らせるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診または、必要に応じて外来受診を行っている。また、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられる様支援している。	かかりつけ医を継続している利用者もいるが、ほとんどの方は、協力医療機関の往診を受けている。専門医を受診する時は職員が同行し、健康状態を伝えて適切な医療支援につなげている。医療機関ごとに個別に受診状況を記録している。	

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっており、週1回の定期訪問で情報交換、情報の共有をし、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入院時には、安心して治療が受けられるよう、また、早期退院が出来るよう医療機関との情報交換、情報の共有、相談等の関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り介護の状態になった時は、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ご家族様と連携をしながら、スタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる	利用開始時に重度化と看取りの指針に沿って事業所の対応を説明し、看取りを行う場合は改めて同意書を作成している。訪問看護師の協力を得て研修を行い、今年度も数名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、随時話し合い・確認を行っている。スタッフの入れ替えがあつので、全員が救急マニュアルを把握し、実践力を身に付けれるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼・夜の避難方法等の確認を行っている。また、災害を想定して備蓄品の保管をしている。災害時の避難訓練も行う。	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を行っている。感染症の流行で地域住民は参加していないので、改めて協力を依頼する予定である。感染症流行のため、救命講習の受講もできていない。ケア別対応や2階からの避難方法の再確認までは行っていない。	計画的に職員の救命講習の受講を進めるよう期待したい。また、2階からの避難方法を再確認し、ケア別の個別対応についても全職員で話し合うよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて、声かけをする。声の大きさや言葉使いに注意し、誇りやプライバシーを損ねない様に、その時の状況に合わせた対応をしている。	スピーチロックに関する勉強会を行っている。申し送りは利用者の居ない場所で行い、書類の背表紙はイニシャルを使用してプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、本人の思いや希望を理解できる様、また自己決定が出来るよう働きかけている。。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを尊重し、本人の希望に沿った日々を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。衣服等は、本人の意思を尊重し、その人らしいオシャレが出来る様声かけを行い支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに合わせて、食事を用意したり、出前などで、食事が楽しみになる様支援しているまた、本人の負担にならない様に、準備や片付けをしている。	食材業者作成の献立を使用している。誕生日は、本人の好きな釜飯や寿司の出前などの食事を楽しんでいる。クリスマスなどのイベント時にはオードブルなどを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1日を通して栄養や水分が確保出来るよう努めている。必要に応じて、介護食の提供やトロミをつけるなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけや、義歯の洗浄等で、口腔内が清潔に保てるよう支援している。訪問歯科の先生と連携し、本人に応じた口腔ケアをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援を行っている。個々の力や排泄パターンに合わせて、トイレ誘導等の支援をしている。必要に応じて、リハビリハantzの使用や夜間のポータブルトイレの支援を行っている。	自立している方も個別に排泄状況を記録している。本人の意思表示の他、個々に合わせた声かけ誘導を行うことで失敗を減らしている。時間帯に応じて排泄用品を変更するなどの支援も排泄の自立につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に気を付け、個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。必要に応じて、腹部マッサージや服薬の支援、乳製品や食物繊維の摂取など予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援を行っている。	毎日入浴が可能で、本人の希望に沿った時間帯で入浴することができる。一人当たり週2回程度の入浴を行っている。好みの湯加減で、体調を見ながら入浴時間を長めにする方もいるなど、個々にあった支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターン、身体状況に合わせて、食後の休憩ができるよう支援している。また、夜安心して気持ちよく眠れるよう、それぞれに合わせてた就寝時間になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の目的や副作用、用法用量を理解し、服薬支援をおこなっている。症状の変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし、新聞や雑誌を見るなど楽しみがもてるよう支援している。また、希望に合わせて嗜好品の購入などで、気分転換等の支援をしている。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ期間で外出の機会が減っていたが、本人やご家族様の意向に添って、外出支援をおこなっている。	天候のよい日は事業所周辺を散歩し、近所の花壇なども楽しんでいる。感染症の流行状況を見ながら、以前行っていた個別の買い物支援や玄関先でおやつを楽しむなど、外気に触れる機会を更に増やしていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて、買い物に同行したり、買う物を相談したり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、手紙や電話の取り次ぎなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者様が集まりやすい様に花や行事の写真等を張り、季節を感じられるような空間作りをしている。また、扇風機や加湿器などで、温度・湿度に気を付け、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビングを中心に居室が配置されている。ソファを複数設置しており、各々が好きな場所でゆったりと過ごすことができる。壁面には誕生日の方の写真などを掲示し、装飾コーナーも設けられており家庭的な温もりが感じられる。廊下や階段には近隣幼稚園や保育園からのプレゼントなども飾り付けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に新聞やテレビ、雑誌等を見るなど、思い思いに過ごせるよう、また車椅子でも、自由に動けるよう家具の配置にも気を付けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた馴染みの物を配置したり、ご家族の写真を飾るなどしている。転倒のリスクを考え、家具の配置を決めたり、動きやすい環境を作るなど、居心地の良い居室作りをしてをいる。	クローゼットが備え付けられた居室には、以前から使用しているタンスや椅子などの馴染みの家具やテレビ、扇風機などの家電を持ち込んでる方もいる。写真や手作りの装飾もあり、本人の過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に快適に過ごせるよう、必要に応じて手すりを付けている。転倒のリスクがある場合は、物を置かないなどの工夫をし、入居者様が自立して生活を送れるように支援している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O193600047		
法人名	株式会社 彩寿		
事業所名	グループホーム彩寿 2階		
所在地	苫小牧市桜木町2丁目2番20号		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気の中、入居者様とスタッフの会話も多く笑顔の絶えないホームです。施設ではなく、家という思いで、喜びや悲しみを共有しながら、ホームがひとつの家族のような関係作りを目指しています。医療面では、協力医療機関や訪問看護ステーションと連携し、日々健康管理に努めています。看取り介護にも積極的に取り組んでいます。地域との繋がりがも大切にしながら、入居者様が安心・安全に過ごせる様。ご家族様にも安心・信頼して頂ける様なホーム作りを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和6年2月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、ケア理念をホール内に掲げ、スタッフ間で共有し実践に繋がるよう取り組んでいる。ケアプラン作成時や問題が生じた時など、理念に立ち返り実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行により、地域との交流も控えていたが、今後は以前のような地域との交流の場を設けていきたい。回覧板を通し、地域の情報は得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の小学校での、認知症サポーター養成講座に関わっていたが、コロナ流行で控えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、外部の人を呼んでの開催はしていなかった。今後は、予定を立ててご家族様や地域の方にも参加頂ける様、取り組んでいく。会議の年間予定表を送付済。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内で何か、問題や疑問が発生した場合など、市町村に連絡を取るなどしているが、今後は、運営推進会議等を通して、協力関係を築くよう取り組んでいく。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為について、十分理解できる様、外部研修内部研修を通して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間の情報を共有し一人ひとりのケアを確認しながら、虐待が見過ごされることがない様取り組んでいる		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか学ぶ機会がなく、活用できていない。今後は、学ぶ機会を設け、活用出来る支援に繋がってきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い、入居者様やご家族様の疑問や不安に思う点を解決し理解、納得を得ている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や入居者様とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望に耳を傾け、スタッフ間で情報を共有し運営に反映させている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回個別懇談の場も設け、出された意見や提案は、十分話し合い、反映させている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。向上心がもてる様、資格習得の為の休暇や手当等の制度を設けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ期間で、外部研修への参加は減っているが、スタッフからの申し出のあった研修には、参加出来る様、調整を行っている。外部の研修については、計画を立てて取り組んでいく。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流は、コロナ期間もあり出来ていない。今後は、研修会等の場で交流や情報交換をしサービスの質の向上に繋がる様取り組んでいく。			

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、本人が安心できる、関係作りに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていることや不安に耳を傾け、情報交換や情報の共有を行い、出来るだけ不安の解消、要望に近づく様、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居段階で、入居者様やご家族様が必要としているサービスを見極め、十分な話し合いをし、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側もされる側も、同じ立場という思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態を把握し、ご家族様と情報交換や情報の共有をすることで、共に支えるという関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所との関係や友人関係等、馴染みの関係が途切れない様に、電話や面会等の支援に努めている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格、生活習慣を把握し、入居者様同士の関わり合いが出来るよう空間作りを含めて支援している。			

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、これまでの関係性を保ち必要に応じて、相談や支援に繋がっているご家族様もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の変化をスタッフ間で共有し、入居者様の希望や意向を把握できるよう努めている。困難なケースの場合は、本人本位で検討するよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に頂く情報と、入居時にご家族様に、これまでの生活歴のアンケートを頂き、馴染みの暮らしや生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等やコミュニケーションを通して、個々の生活リズムや身体状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、モニタリングを行い、意見等を反映しながら、現状に添った介護計画を作成できる様努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報を共有し、モニタリングをしながら、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の、その時々ニーズに合わせ、柔軟な対応が出来るよう、十分な話し合いをしながら取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、行事等に参加したり、本人が心身の力を発揮できたり、楽しく暮らせるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診または、必要に応じて外来受診を行っている。また、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられる様支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっており、週1回の定期訪問で情報交換、情報の共有をし、適切な看護が受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院時には、安心して治療が受けられるよう、また、早期退院が出来るよう医療機関との情報交換、情報の共有、相談等の関係作りに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り介護の状態になった時は、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ご家族様と連携をしながら、スタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、随時話し合い・確認を行っている。スタッフの入れ替えがあつので、全員が救急マニュアルを把握し、実践力を身に付けれるよう努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼・夜の避難方法等の確認を行っている。また、災害を想定して備蓄品の保管をしている。災害時の避難訓練も行う。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて、声かけをする。声の大きさや言葉使いに注意し、誇りやプライバシーを損ねない様に、対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、本人の思いや希望を理解できる様、また自己決定が出来るよう働きかけている。。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを尊重し、本人の希望に沿った日々を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。その人らしいオシャレが出来る様声かけを行い支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせて、食事を用意したり、入前などで、食事が楽しみになる様支援している。本人の負担にならない様に、準備や片付けをしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1日を通して栄養や水分が確保出来るよう努めている。必要に応じて、介護食の提供やトロミをつけるなどの支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけや、義歯の洗浄等で、口腔内が清潔に保てるよう支援している。訪問歯科の先生と連携し、本人に応じた口腔ケアをしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援を行っている。個々の力や排泄パターンに合わせて、トイレ誘導等の支援をしている。必要に応じて、リハビリハンツを使用している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に気を付け、個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。必要に応じて、乳製品や食物繊維の摂取など予防にも取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターン、身体状況に合わせて、食後の休憩ができるよう支援している。また、夜安心して気持ちよく眠れるよう、それぞれに合わせてた就寝時間にしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の目的や副作用、用法用量を理解し、服薬支援をおこなっている。症状の変化の確認にも努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし、新聞をや雑誌を見るなど楽しみがもてるよう支援している。また、希望に合わせて嗜好品の購入などで、気分転換等の支援をしている。			

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ期間で外出の機会が減っていたが、本人やご家族様の意向に添って、外出支援をおこなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて、買い物に同行したり、買う物を相談したり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、手紙や電話の取り次ぎなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者様が集まりやすい様に花や行事の写真等を張り、季節を感じられるような空間作りをしている。また、扇風機や加湿器などで、温度・湿度に気を付け、居心地よく過ごせるよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に新聞やテレビ、雑誌等を見るなど、思い思いに過ごせるよう、また車椅子でも、自由に動けるよう家具の配置にも気を付けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた馴染みの物を配置したり、ご家族の写真を飾るなどしている。転倒のリスクを考え、家具の配置を決めたり、動きやすい環境を作るなど、居心地の良い居室作りをしてをいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	安全に快適に過ごせるよう、必要に応じて手すりを付けている。転倒のリスクがある場合は、物を置かないなどの工夫をし、入居者様が自立して生活を送れるように支援している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム彩寿

作成日：令和 6年 4月 10日

市町村受理日：令和 6年 4月 12日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全家族に議事録を送付するよう期待したい。また、議事録に次回テーマを記入するなど、参加できない家族の意見や質問なども会議に活かすような工夫を期待したい。	全家族に議事録の送付を行う。会議に参加できない家族の意見や質問を活かす取組を行う。	会議に参加できない家族に、面会時に質問や意見を聞いたり、アンケートを実施するなどの取り組みを行っていく。	1年
2	35	計画的に職員の救命講習の受講を進めるよう期待したい。また、2階からの避難方法を再確認し、ケア別の個別対応についても全職員で話し合うよう期待したい。	職員全員、救命講習の受講をする。2階からの避難方法を確認し、訓練に繋げたい。	救命講習受講に向け、計画的に進めていく。2階からの避難方法について職員間で確認し、訓練の実施に繋げていく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。